



面談に向けて

間もなく面談を始めようと思う。今回の主なテーマは「具体的な受験先の決定」である。とはいっても、こんなものはその場で相談して決めることではなく、君たちが前もって決めておくべきことであって、それを保護者の方も交えて確認するのが中心となる。

身もふたもない話だが、受験や進学にはお金がかかるわけだから、国立か私立か、いくつの学校を受験するのか、自宅から通うのか地方の大学も考えるのか、大学院は視野に入れるのか、といったことも考えなければならない。いくら「自分の好きな通り…」と言ってくれているとしても、親には親の思いというものもあるだろう。その辺をはっきりさせて、本人もご家族も、心置きなく受験に邁進できる環境を整えたいわけである。

*

で、受験先の決定の話に戻るが、これは君たちがご家族と相談した上で基本的な方向性（志望の大学・学部）を面談までにある程度決定しておいてほしい。私が答えられるとすれば、「A大学とB大学で迷っているが、現在のデータではどちらの現役合格の可能性が高いですか？」とか、「同じくらいの成績を取っている先輩方はどんな結果になったのですか？」といった質問に対してである。

ただ、これも「現在のデータでは」という「但し書き」がついているわけだし、当然のことながら「可能性」の話をしているに過ぎない。「同じくらいの成績の先輩」であっても、性格や勉強法が異なれば違った結果になってもおかしくはない…。何か責任逃れのように聞こえるかも知れないが、担任が君たちに伝えられることは、その程度のことなので

ある。例年、予想を裏切る好結果を残す生徒がいる一方で、残念な結果に終わる生徒もいる。後から考えれば、その原因を分析することは可能だが、この時点でどうなるのかというのは全く分からないといっても過言ではない（成績データも、9月・10月のある特定の日の君たちの力を示しているに過ぎない）。

ということで、とにかく「自分の進学したい大学・学部を受けなさい」としか私には言いようがない。いやしくも君たちは日比谷生であり、日比谷生が志望できない大学などこの世の中にはないのである（男子はお茶大はダメだろうが…笑）。前号で書いた通り、勉強では「背伸びすること」が大切な面もある。同じように、受験も「背伸びすること」が必要ではないだろうか。

もう一度繰り返すが、面談までには、自分で（ご家族も含めて）志望校をある程度決定しておいてほしい。もちろん、志望校決定についての質問・相談があれば、面談の前に相談に来てくれてオッケーである。また、例えばご家庭の事情で浪人できないという人もいるだろう。そういう人は、現在のデータで「安全圏」「相当圏」「目標圏」のような3段階くらいで志望校を考えるとといった作戦も必要になる。「安全圏」がどこなのか知りたい」といった要望についても、遠慮無く問い合わせしてほしい。

*

大学の選択は、今後の君たちの人生と大きく結びつく。そのことを素直に認識して、自分のやりたいこと、行きたい大学を選ぶことが大切だ。しっかり考えよう。